

## 第八講 絶対主義

総論：15～18 世紀 近代市民社会への過渡的形態

### 1. 政治

王権による中央集権化と国内統一：進歩的側面

封建的再編：反動的側面

真の国家統一はフランス革命まで達成されず

身分制議会と封建的特権、官僚制（売官制）と常備軍（傭兵）

地方の集合体：地方の法慣習の尊重

地方三部会→承認の必要

諸身分の特権：封建法上の関係→安堵と奉公

免税の特権

官職＝財産

王権神授説：ボダン（アンリ 3 世に仕える。『国家論』）

ボシュエ（ルイ 14 世に仕える。『世界史序説』）

ジェームズ 1 世

↑

パウロの『ロマ書』が根拠

### 2. 社会

初期資本主義社会

二階級均衡論：前期的性格

封建階級：廷臣や軍人

市民階級：特権商人や売官による官僚化

VS

産業資本家・職人・農民

### 3. 経済政策

重商主義：富の基準を金や銀などの貴金属に求め、その集積を図る。

その富を軍事力の強化に向け、絶対主義戦争を展開

重金主義：スペイン

貿易差額主義：トマス・マン（英）、コルベール（仏）

保護貿易：輸出税引き下げ、輸入税引き揚げ、特許貿易会社、  
産業保護

#### 4. 国際関係：勢力均衡の維持

1521年（イタリア戦争）～1756年（七年戦争）

ハプスブルグ 対 ブルボン

スペイン（ハプスブルグ朝：1519～1700年）

カルロス1世（1519～56年）

身分制議会（コルテス）の無力化

新大陸の植民地化と銀の流入

フェリペ2世（1556～98年）

##### 1) 太陽の没する事のない帝国の形成

スペイン、ネーデルラント、フランシュ=コンテ、ミラノ、  
ナポリ、シチリア

新大陸、西インド を継承

フィリピン（1569年）、ポルトガル（1580年）の領有

レパントの海戦（1571年）

ユグノー戦争に介入

宗教裁判（トルケマダ）→宗教的絶対主義

##### 2) 没落の始まり

毛織物業の衰退（羊害）

アルマダの敗北（1588年）

オランダの独立（1581年）

イギリス（チューダー朝：1485～1603年）

ヘンリー7世（1485～1507年）：星室庁、枢密院設置

ヘンリー8世（1507～47年）：首長令（1534年）→修道院領没収・  
売却→常備海軍建設

エドワード6世（1547～53年）

メアリー1世（1553～58年）：フェリペ2世と結婚

カレー喪失

エリザベス 1 世 (1553~1603 年)

1) 内政

統一令 (1559 年)

ジェントリー登用→治安判事

グレシャム→貨幣改鑄

徒弟法 (1563 年)、救貧法 (1601 年)

2) 外交

冒険商人組合：私掠船 (ドレーク)

特許貿易会社

ヴァージニア植民 (1584 年)：W.ローリー

東インド会社 (1600 年)

オランダの新教徒支援→アルマダ撃滅 (1588 年)

3) 国民文化の黄金時代

シェークスピア、フランシス・ベーコンなど

フランス (ブルボン朝：1589~1792 年)

アンリ 4 世 (1589~1610 年)：ナントの勅令 (1598 年)

シュリー登用→財政の建て直し

東インド会社設立 (1604 年)

ルイ 13 世 (1610~43 年)：

リシュリュー登用：王権強化

高等法院圧迫、ユグノー弾圧

三部会停止 (1615 年)

三十年戦争介入 (1635 年) ←対ハプスブルク

ルイ 14 世 (1643~1715 年)：太陽王

5 歳で即位

マザラン (1643~61 年)：

フロンドの乱 (1648~53 年)：貴族勢力を最終的に押さえ  
込む

ウェストファリア条約（1648年）

親政（1641～1715年）

中央集権化：中産階級を知事に任命

常備軍：チュレンヌ、ルーボア、ポーバン

重商主義：コルベール

産業助成：王立マニユファクチュア

貿易促進：保護関税

植民地貿易：東西インド会社設立

植民地開発

国内市場統一：国内関税整備・道路拡充

外交と戦争

ハプスブルク打倒→「自然国境説」

南ネーデルラント継承戦争（1667～68年）

→アーヘン条約

オランダ戦争（1672～78年）→ナイメーヘン条約

ファルツ継承戦争（1689～97年）

→ライスウイク条約

スペイン継承戦争（1701～13年）

カルロス2世の死→ハプスブルク朝の断絶

フェリペ5世の即位

→ユトレヒト条約（1713年）

ラシュタット条約（1714年）

晩年

ナント勅令の廃止（1685年）

→ユグノーの亡命→経済の衰退

貿易不振→国内産業停滞

反仏勢力の台頭

社会不安、窮乏、強制募兵、新税

ルイ15世（1713～74年）

ジョン=ローの南海泡沫事件（1720年）

ポーランド継承戦争（1733～35年）

オーストリア継承戦争（1740～48年）→アーヘン条約

外交革命（1756年）

七年戦争（1756～63年）→フベルトゥスブルク条約・パリ条約

↓

財政危機、社会不安、封建勢力の復活、第三身分の台頭→破局  
ルイ 16 世（1774～92年）

財政危機

恐慌と不作

啓蒙思想の普及

ジャーナリズムと王妃マリー・アントワネット

革命

#### 啓蒙君主

資本主義と市民社会の未発達な東欧

再販農奴制

上からの近代化

#### オーストリア

マリア=テレジア（1740～80年）

ヨーゼフ 2 世（1765～90年）

#### プロイセン

フリードリヒ=ヴィルヘルム 2 世（1713～40年）

フリードリヒ 2 世（1740～86年）

#### ロシア

イヴァン 4 世（雷帝）（1533～84年）

ピョートル 1 世（大帝）（1682～1725年）

エカチェリーナ 2 世（1762～96年）

アレクサンドル 1 世（1801～25年）